



ロリータの聖地下妻プロジェクト委員会委員長
鈴木 匡明さん

平成16年に映画化された「下妻物語」のロリータファッションで地域活性化を進める「ロリータの聖地下妻プロジェクト委員会」の鈴木匡明委員長（長塚）から届いたお便りを紹介します。

下妻の魅力を情報発信

「ロリータの聖地下妻プロジェクト委員会」を発足させて2年目の昨年は、「地元にもっとロリータファッションを着こなす女の子を増やしたい!」という想いから委員会で購入した洋服を着ていただく「ロリータファッション試着体験コーナー」を砂沼フレンドリーフェスティバルで開催いたしました。当日は雨で来場者は例年より少なかったのですが、それでも8組の方に試着体験をしていただき、「カワイイ!」という嬉しい言葉をいただきました。この試着体験イベントは、今後、砂沼桜まつりや花とふれあいまつりなどでも開催していけるように計画しております。

今年は、2011年の砂沼フレンドリーフェスティバルで開催したロリータ界のプリンセスを決めた時のような大きなイベントを、市民文化会館で開催したいと計画しております。第1回目のイベントでは海外からも2名の参加があり、約100名のロリータちゃん達が集まって盛り上がりましたが、今回は準備と宣伝活動に多くの時間をかけて、国内外からより多くの方に参加していただき、新作ファッションショーやグッズ販売、また下妻物語の世界観を出せるように下妻産農作物の販売会なども開催し、ロリータ界のオリンピックのようなイベントにしていきたいと考えております。

そして、たくさんの人に下妻に来ていただき、砂沼広域公園や大宝八幡宮などの見どころ、特産品など下妻の魅力をさらに多くの人へ情報発信してもらえよう、地域振興につながるような運営に努めてまいりたいと思います。



砂沼フレンドリーフェスティバルで、ロリータファッションを試着体験した女の子たち

開設するなど、下妻市の魅力を市内外に積極的に発信いたしました。また、下妻市のイメージキャラクターである「シモンちゃん」を商標登録し、それを活用したポロシャツやハッピを製作し、下妻市のPRやイメージアップの向上に努めてまいりました。

産業の活性化の面におきましては、昨年7月に、「SMC株式会社下妻工場」が稼働し、つくば下妻第二工業団地においては、今春稼働を予定している「三五関東株式会社」や、昨年2月に稼働いたしました「株式会社オートウェイ」、昨年12月稼働いたしました「三共貨物自動車株式会社」など、各企業の進出により、地元雇用の創出

や地域経済の活性化、市税収入の向上など、下妻市が東西の雄として大きく躍進する礎の年になると考えているところがございます。

残る区画におきましても早期完売を目指し、積極的にトップセールスを行っているところであり、近々良い報告ができるものと考えております。

こうした各企業の下妻市への進出に伴うインフラ整備につきましても、市中央部を東西に連絡する「南原・平川戸線」は、順調に進捗しているほか、アクセス性の向上と交通結節道路として期待される「南部環状線」につきましても、昨年度から用地買収に着手し、早期完成を目指しているところでござ

ります。

また、東日本大震災を教訓として、災害時の応援協定の拡大、個別受信機である「防災ラジオ」の購入、市内15か所の避難所に発電機17台を設置したほか、小学校3年生までを対象としていた医療福祉費支給制度につきましても、小学校6年生まで拡大し、さらに、中学校3年生までを検討しているところであり、何よりも市民の皆さまが、「下妻市に住んで良かった」「これからも住み続けたい」と思える、安心安全のまちづくりを積極的に展開してきたところでございます。

次に、「下妻ブランド」の確立につきましても、特産品である下妻甘熟梨を中心としたブランド化戦略を進め、情報発信基地として北千住に下妻市のアンテナショップを開設し、昨年度まで下妻市の特産品をPRしたほか、今年度からは浦安市に「下妻ファーム」を

「都市再生整備計画」につきましても、「見える砂沼の演出」や「街中の活性化」を図るため、積極的に推進してまいりたいと考えております。

現在、下妻市がさらに躍進するため蒔いてきた「種」が、芽吹いていることを実感しており、市民の皆さまが誇れる「下妻市」とするたため、引き続き各種施策に全身全霊をかけ、取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、今年一年が皆様にとりまして、健やかで実り多い一年であり、年頭のご挨拶といたします。

年頭のあいさつ



下妻市長
稲葉本浩

新年あけましておめでとうございませう。

市民の皆さまには、希望に輝く新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

また、昨年中は、市政各般にわたりあたたかいご支援とご協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

私が市政をお預かりして早いもので4回目の新年を迎え、この間、「みんなで創ろう『いきいき下妻』」を基本理念に、各種施策を積極的に取り組んでまいりました。

特に、就任時に危機的な状況にあった本市の財政事情につきましても、市民の皆さまや議員各位のご理解・ご協力を得ながら、財政健全化指標に目標値を掲げ、「選択と集中」による効率的、効果的

な行政運営に取り組んでまいりました結果、実質公債費比率においては、就任時の18・5%から平成24年度には14・0%、経常収支比率につきましても94・8%から88・7%まで改善され、財政調整基金残高につきましても、平成21年度末が約2億6千9百万円にございましたが、平成24年度末には約13億5千万円と、大きく好転してきているところでございます。

昨年10月には「下妻市協働のまちづくり市民会議」を設立し、市民主導のまちづくりがスタートしたほか、災害に強いまちづくりを推進するため、学校、幼稚園、保育園等の耐震化においては、東部中学校の移転改築をはじめ、平成25年度末までに、小学校3校の校

舎と6校の体育館耐震補強及び大規模改修工事が完了し、平成26年度は、高道祖小、上妻小、下妻小南側校舎を考慮しております。平成27年3月までには、下妻中学校を除く全小中学校の耐震化率100%を目指し耐震化を現在急ピッチで進めており、下妻保育園舎も、平成22年度に耐震補強工事が完了しているところでございます。

また、東日本大震災を教訓として、災害時の応援協定の拡大、個別受信機である「防災ラジオ」の購入、市内15か所の避難所に発電機17台を設置したほか、小学校3年生までを対象としていた医療福祉費支給制度につきましても、小学校6年生まで拡大し、さらに、中学校3年生までを検討しているところであり、何よりも市民の皆さまが、「下妻市に住んで良かった」「これからも住み続けたい」と思える、安心安全のまちづくりを積極的に展開してきたところでございます。

次に、「下妻ブランド」の確立につきましても、特産品である下妻甘熟梨を中心としたブランド化戦略を進め、情報発信基地として北千住に下妻市のアンテナショップを開設し、昨年度まで下妻市の特産品をPRしたほか、今年度からは浦安市に「下妻ファーム」を